

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/08/25 ～2019/09/30)

私は現在 University of Alberta (以下 UofA) の Faculty of Arts で Linguistics を専攻しています。

1. 勉学の状況

本セメスターで私は二つのコースを受講しています。UofA では、月水金曜日が 50 分授業、火木曜日が 80 分授業で構成されており、私の受講している二つのコースは火木曜日に開講されています。二つのコースは prerequisite を設けているため、introduction to linguistic analysis というコースを履修してからでなければ受講が認められません。私は千葉大学ですでにそれに相当すると思われる科目を受講していたので、担当の教授にメールをして同意を得た後、Administrator を訪問して prerequisite waver form に署名するという流れを踏みました。

① Sociolinguistics

このコースでは言語と社会のつながりやその多様性についてを分析します。興味のある分野と重なる点が多い上に、担当教授の評判も良く、積極的に学んでいます。コースは講義スタイルで、中間、期末テストと、自分でテーマを決めてカナディアンイングリッシュに潜む多様性を調査するペーパーが課されます。序盤は理解しやすかったですが、徐々に専門性が増してハードになってきていることを実感しています。地道に Reading と復習に励みたいと思います。

② Second Language Acquisition

このコースでは第二言語習得について様々な観点から分析します。多様な見方ができ、それに対して色々な意見を持つ人がいて、それを軽い話し合いの時間や課題としてのディスカッションワークにおいて共有でき、とても充実した学びにつながっています。時には自分の意見を持つことすら難しい内容もありますが、様々な観点到に触れ、疑問を持ったり、納得したりすることができ、とても面白いです。このコースも Reading が課されているので、スパンの短い火曜と木曜の間は少し大変ですが頑張りたいです。

また、これらのコース以外で、授業のない月水金曜日には興味のある学問分野 Ethnosyntax についての本を読み進める時間を設けました。図書館はいくつもあり、開館時間も長いので環境にも不自由することなく学びを深めています。

2. 生活の状況

UofA にはいくつもの種類の寮がありますが、私が住んでいるのは HUB と呼ばれる寮です。

HUB では一人暮らし、二人暮らし、四人暮らしと、家具付き・家具なしが選べます。私は

四人の家具付きの部屋を希望し、そこではそれぞれの個室が与えられ、キッチンとバスル

ームをルームメイトとシェアすることになっています。今のところルームメイトは日本人

1人で、一緒に住むはずだったカナダ人2人は部屋のダンスにネズミが出てしまった(?)

ので別の寮に移ってしまいました。もともと、インターナショナルハウス(と呼ばれるキ

ッチンと同じ階の人たちと共有するスタイルの寮)と迷ったときに、私の性格上のことも

あり大勢いたらむしろ喋らなくなりそうで、4人という限られた人数で必然的にコミュニ

ケーションを取る環境の方が向いていると思い HUB を選んだにもかかわらず、ルームメ

イトが日本人というのは、正直思い描いていた寮生活ではなくなってしまい残念でした。

寮は家具付きといっても色々買い揃えなくてはならないものが多く、初期費用はかなり

かかりました。ありがたいことに、学生証に Upass (履修が済むともらえます)があれば

エドモントン市内の電車とバスは乗り放題なので、30分くらいかけて South Park という

ところへ行き、Second Hand Store や DollarTree(all \$1.25)で安く調理器具や掃除道具

を揃えました。そこには H-mart と呼ばれるアジア系スーパーもあり、ラーメンや韓国のトッポギ、日本のお菓子などが調達できます。物価は基本的に高く、中でも紙資源、例えばトイレットペーパーやゴミ袋は日本で買う 2 倍～3 倍します。

本セメスターでは自分で計画して使える時間がたっぷりあるので、いくつかのクラブ活動にも所属することにしました。

① The Last Alliance: UofA Tolkien Society

毎週月曜日に 2 時間ほど J.R.R. Tolkien の作品である The Two Towers (LOTR) について語り合うグループです。映画のみでしか作品に触れたことがなかったので、本を読むこと自体が新鮮で、かつ、2 時間もかけて熱く語り合うので、聞いているだけでも自分とは違った感動のポイントを知れたり、深層部分まで作品理解できるのが本当に楽しいです。ただ、毎週本を 2 章分読み進めてからの参加なので、作品特有の語彙につまづき読み進めるのに一苦労する私には、もはや一つの授業のような存在でもあります。それでも自分の好きが共通している人たちなので、今一番心地よく感じるグループです。

② Undergraduate Linguistics Association

このクラブでは、文学部学生の中で Linguistics のコースやプログラムなどに関して情報を交換しあったり、それについて議論をする活動が毎週木曜に 1 時間ほど行われます。内容もアカデミック寄りなので、この活動も私にとっては授業のような感覚です。本セ

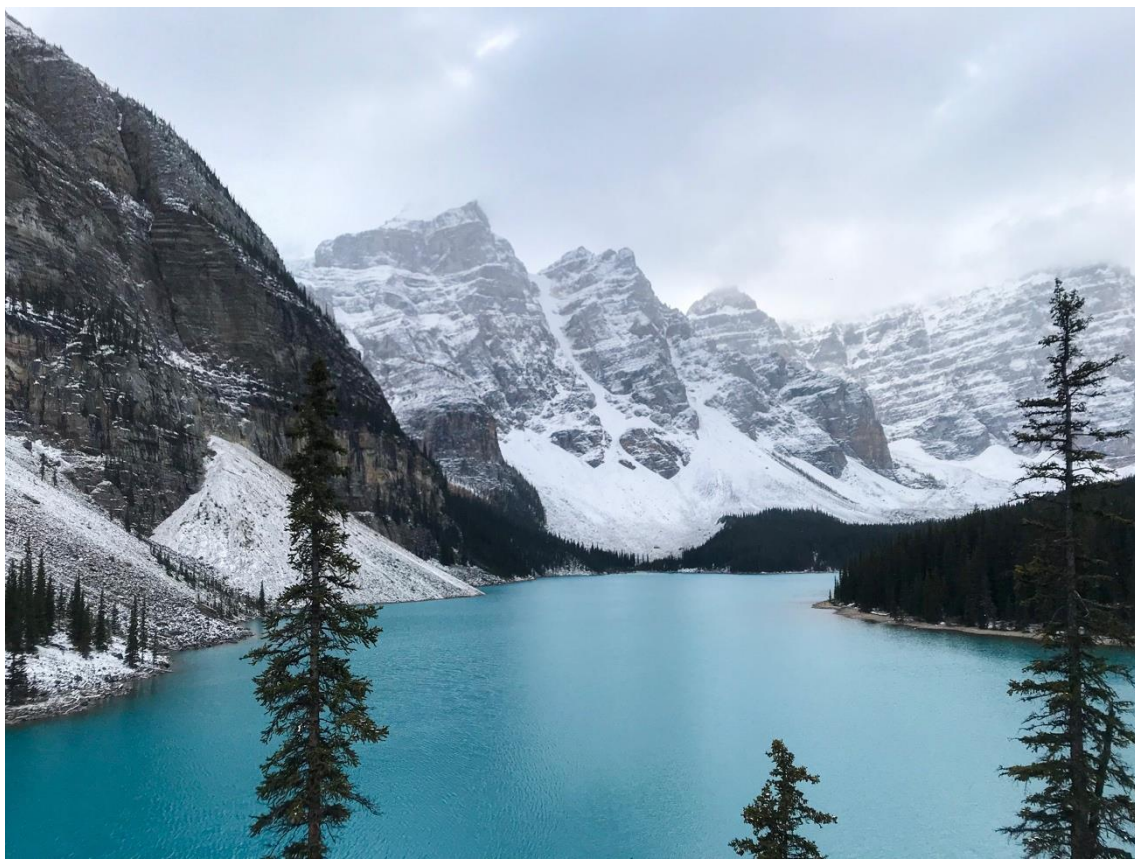
メスターの科目数が少なすぎたことを心配していましたが、このようにコミュニティや知見を広げられるクラブ活動に参加する余裕がありむしろよかったと思っています。

③ RuSH

私はこのクラブのランニングに週3回ほど参加しています。Winter Term にはこのクラブが管轄する PLAY と呼ばれる子供たちと遊ぶプログラムにも参加したいと思っています。

さらに、今月末は留学生向けの週末バンフトリップに参加しました。バンフは観光地として有名で、日中もかなり冷え込み（氷点下）、あいにくの曇りと雪という天気でしたが、とても綺麗なところでした。日本人も多かったですが、他の国からの留学生や本科生とも楽しめてよかったです。この旅行までは英語を話すことに抵抗がありましたが、それが薄れたように感じました。

もう留學生活の 8 分の 1 が経過してしまったことに非常に焦りを感じています。今後より一層の向上心を持って努力していきたいです。これらすべての素晴らしい機会に恵まれたことに感謝します。



Lake Moraine, Banff, Alberta

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/10/1 ～2019/12/31)

私は現在 University of Alberta (以下 UofA) の Faculty of Arts で Linguistics を専攻しています。

1. 勉学の状況

以下、本セメスター受講した二つのコースについて報告します。

(1) Sociolinguistics

社会言語学の授業は講義スタイルで、普段は基本的にリーディングの予習をして受講します。火曜と木曜の間はうまく時間が取れず予習できなかったこともあり、そういった場合には内容が理解しにくいことを身を持って感じました。中間テスト、期末テストには1～2週間前から授業で扱われたトピック（例えばpidgins and creolesやAAVEなど）を復習し始め、直前には記述のテストで答えられるように何度も解き直すことで対策しました。中間テストはカバーできていなかった部分の出題に対応できず平均を下回ってしまいました。期末テストは返却されなかったため結果はわかりませんが、タームペーパーも頑張り、なんとか単位をもらうことができました。そのレポートは英語のvariables（例えば、popとsodaは同じものを指すのに違いがあるのにはどんな要因があるかなど）を自分で決めたトピックに対して調査し分析するといった、わたしにとって新しいスタイルのものでした。まず、わたしはカナダに来るまで知らなかったCanadianが使うとされるEhについてを扱いました。調査にあたり、講義で扱われた内容を踏まえた上でmethodologicalな方法を用いなければならず、アンケートフォームを用いてデータを集めました。しかし、留学生として広くカナダ人との交友関係を持っていなかったため、集められたデータは25件にも満たず、結果として分析することも結論づけることも非情に難しくなってしまいました。また、合計で15ページ近くのレポートになり、テストも重なる中多くの労力を費やしました。それでもこのコースそのものもレポートそのものも自分にとってはとても面白いものだったので楽しんで取り組むことができ、今後の自分の研究内容を固めるステップにもなったように思います。

(2) Second Language Acquisition

この第二言語習得論のコースはとにかく内容が多かったように感じます。幅広く学びを深められた分、キャッチアップするのが非常に大変でした。中間テストはうまく対策できず大幅に平均を下回ってしまい、期末テストでなんとか追い上げなければなりませんでした。11月中旬ごろからの疲れ、ストレスが溜まった結果風邪を引き、そのまま無理をしてしまったために肺炎を患ってしまい、テストは1月中旬の追試を受けさせてもらうことになりました。テスト以外の課題にはレポートやディスカッションがあり、自分の意見をどんな方法であれ共有することができ、また周りの意見にも触れることができたのでとても面白かったです。

一足遅れてではありますがテストを頑張りたいです。

2. 生活の状況

上述したように、肺炎を患ってしまったことがとても辛かったです。咳が目立つ風邪の時点で大学の病院に行った時は病院に行くのもやっとの状態のなか、手違いで4時間ほど待たされ、結果処方箋のようなものは貰えず、のど飴やうがいなどの対処を続けるしかありませんでした。その数日後気管支に痛みを感じたのもう一度病院に行き、別の病院でX線をとると、肺に初期の炎症が見られるということで肺炎の薬をし処方してもらいました。肺炎がわかったころはテスト期間真っ只中で、追試験を受けさせてもらうために書類を提出し、コーディネーターや支援室、担当教授にも大変お世話になってしまい、また、留学生として学びに来ているのにもかかわらず勉強に手をつけられないことがとても苦しかったです。これを経て、今後より一層勉学に励みたいと強く思いました。

初めの頃からなかなか友達作りに苦戦していましたが、12月に入ると人間関係にとっても恵まれるようになりました。それ以前は日本人留学生以外で友達と呼べるような人は一人しかおらず、言うならばヨッ友のような存在でさえ三、四人しかいませんでした。周りの日本人留学生の大半は語学学校でのグループ活動などで友達が増えていくのに対し、私は授業で新しく友達ができることもなく、三ヶ月以上もの間焦り続けていました。きっかけははっきりとはわかりませんが、日本人留学生の友達と一緒に遊ばせてもらったり、一緒に遊んでいたらたまたま新しく友達ができたり、新しくできた友達の友達に出会ったり、たまたま寮ですれ違って遊ぶ約束につながったりと、人脈に恵まれました。また、その中でも、気が合いそうだなと思っていた女の子に授業最終日に思い切って声をかけ、その後二人でカフェに行って仲良くなれたことは、勇気を振り絞って良かったと強く思える出来事となりました。

また、それと同時に英語を学習する上でずっと奮闘してきたLanguage Anxietyに対しても時にうまく向き合えるようになったように感じます。とにかく話すことが怖くてたまらず、話して自分でミスに気づくのはどうすることもできず、常に評価を気にして不安に苛まれていました。周りからは、誰も気にしてないから大丈夫、とにかくたくさん喋ればできるようになるとアドバイスをもらいましたがそれすらできず、自ら論文を読んだりTEDやYOUTUBEなどで関連する動画を視聴したり、部屋での独り言を英語でしてみたり、ボイスレコーディングで練習したりと、自分にできることはやってみました。今になってもそのAnxietyが無くなったとは言えず、時々気にせず話すことができても、そうでない時もあります。しかし、居心地のいい友達が増え、英語を話したいのではなく伝えたいことを伝えたいと思う機会に恵まれたことで、不安が和らいだりそれを意識せずに英語を使えるようになってきたのかなと感じています。折り返し地点でやっとスタートに立ち始めているような感覚ですが、徐々に克服していけたらと思います。

エドモントンの寒さには予想外なことにすぐに慣れたのであまり不便していません。雪は滑るのでウィンターブーツが必要ですが、気温に対してはダウンコートがあれば対策できます。こちらの文化で驚いたことは、自分のスケート靴を所有しているカナダ人が多いことです。ウィンター

スポーツが盛んなのだと気付かされた瞬間でした。ショッピングモールにもスケートリンクがあり、凍った湖などでも楽しんでいる様子が見られます。アイスホッケーの試合も一度は観に行きたいし、そりやスキーも挑戦してみたいです。また、噂に聞いていたブラックフライデーとボクシングデーのセールは本当に大規模で驚きました。人の多さもセールの大きさもすごかったです。クリスマスは町中が静かで日本との違いも感じました。また、このようにいろいろなことを体験できることに感謝しています。残りの留学生活、胸を張って帰国できるように向上心を持って向き合っていきたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/01/01 ～2020/04/22)

この報告書は、4月3日に緊急帰国し、その後も日本でオンラインコースの受講を続け、同月22日（カナダ時間）に留学を修了するまでを含みます。

1. 勉学の状況

以下、冬季セメスターでの履修科目別に報告します。

(1) Introduction to Linguistic Anthropology

社会言語学関連で、言語人類学にも言語運用と社会的な要因にまつわる関係性について興味があり、とても意欲的に受講しました。このコースは火曜と木曜の80分ずつの講義スタイルで、毎週木曜に指定されたリーディング（火曜、木曜の授業内容に対応）を読み、その内容についての要約や批評などを含む小さめのレポートを提出することが求められており、今期一番真剣に向き合った科目となりました。教授は早口な方だったので内容を完全には理解できていない不安もありましたが、リーディングや Top Hat というアプリ（課金制）を用いたクイズなどのおかげもあり、また、テスト勉強を通し、言語人類学に関する内容理解を深められたことをとても嬉しく思います。このコースは期待よりも興味深いものが多く、今後の進路として考えていた院進学のより明確な目的を意識することにつながりました。後半は授業自体の遅れに伴い、遠隔講義への変更があったことや、帰国を余儀無くされ、不安定な環境のなかテストを受けることになったことで苦労しましたが、とても実りのある学びだったと思います。課題は先述のウィークリーレポートだけではなく、タームを通して二度、有名なデル・ハイムズのスピーキングモデルを含む、実際に社会的なインタラクションの場面を分析するレポートもありました。自分の興味が深い分野にとっても近く、量と質が求められたハードルの高い課題ではありましたが、楽しみながら、また、やりたいことをやっているなど実感しながら取り組むことができました。

(2) Child Language Acquisition

秋タームの第二言語習得論に続き、母語習得にまつわる学問についてこのコースを履修しました。留学当初から言語習得に関してはとても興味が強く、というのも、言語習得に社会的な要因が絡んで言語運用につながるのではという考えや母語習得と第二言語習得の違いについて深く知りたいという思いがあったからなのですが、実際とても面白い内容ばかりで、自分の研究したい内容に直接的に影響を与えたわけではないですが考えが深まり楽しかったです。このコースは中間期末テストの他に小テストが2回、毎週のフォーラムディスカッション、2回のスピーチ分析を含み、内容理解が深めやすかったです。遠隔講義になってからは基本的に教授が録音授業を提供したものを火曜、内容についてのオンラインディスカッ

ションを木曜に行うというスタイルでした。

(3) English Grammar for Adult ESL

このコースは他学部受講を許可してもらった教育学部の科目で、大人の英語学習者に対する英文法のアプローチについて、文法そのものを意識的に見直したり、CR タスクなどを含む教授法に触れたりすることで学びを深めていきました。担当の先生がとても魅力的な話し方をする方で、授業の内容にもとても引き込まれました。今まで英文法を意識的に学ぶ方法には反対の立場を支持していた私にとって、このコースはむしろ意識的に学ぶことの意味、効果を提案してくれるもので、全く異なる知見が得られました。コースは他と少し異なり、1週間のうち火曜に一度3時間の講義を受けるというスタイルでした。毎週指定された文法に関する教科書をリーディングし、スタディガイドというワークシートに取り組むというのが基本的な課題で、その他には形容詞形容動詞の単元に関する文法説明のスライド作成も中間課題として課されました。中間テストはテスト形式で受けますが、テストというよりはむしろ自己採点をし、それについて自分の中で理解が浅いところや今後どのように知見を活かしていきたいかなどのリフレクションレポートを書くということに重点がおかれていました。予定されていた期末テストは遠隔授業への変更によって中間テストと同じ形式になり、その上で今までの総まとめとなるレポートを提出しました。そのレポートには教科書の分析やCR タスクを用いた実際の授業づくりの課題も含まれており、実践的な学びができました。

2. 生活の状況

留学が本格的に後半に差し掛かった中で一番の大きな変化は新しい友達との出会いでした。それまで長い間なかなか友達ができないことに悩んでいましたが、久しぶりに顔を出した日英会話クラブで他大学から参加していたカナダ人二人、イタリア人留学生と、日本人のワーキングホリデーを利用してエドモントンに滞在している方との素晴らしい出会いがありました。たまたま同じ席に座っていただけでしたが、彼らの雰囲気は他の人たちと少し違うような、とても柔らかくて楽しいものでした。日本人の方（以下、Yさん）は、それまで日本人留学生ばかりに囲まれて生活していた私にとってとても刺激的で、同時に、自分は今まで何をしていたのだろうと考えさせられたのを覚えています。彼らに私は喋るのが本当に苦手なんだということを伝えると、Yさんも彼らに出会ったばかりの頃は全く喋れなくて物静かだったのに今じゃこうだからねと言って、一緒にいればおしゃべりになるよと励ましてくれました。Yさんはその次の週に彼らが通う大学の日英会話クラブを紹介してくれたり、Yさんのお友達を紹介してくれたりし、また、彼らも私を連れてたくさん遊んでくれました。心から居心地のいい人たちだと思える友達ができ、本当に嬉しく思っています。帰国後の隔離期間中もオンライン通話などをし、今では彼らが言っていた通り、本当に黙り込むことなくお喋りをしている自分がいて驚いています。コロナウイルスの影響が大きくなるにつれ、今まで楽しんでいたカフェ巡りができなくなってしまったことや挑戦したかったウィンタースポーツ、行っておきたかったところ、買っておきたかったものを諦めなくてはならなかったことが心残りではありますが、そのためにまたいつか遊びに行

けたらなと思っています。

寮の生活も新学期になりルームメイトが二人加わったことでさらに楽しくなりました。コロナの影響でエドモントンに実家のある彼女たちはすぐに退去することになってしまいましたが、約2ヶ月の間ムービーナイトをしたりガールズトークをしたりしてとても楽しかったです。秋から一緒に日本人留学生とは本当に仲が良く、授業が大変だったり悩みがあったりするとよく話を聞いてもらったり、ルームメイトのパーティと一緒にいたり最後にキャンパスを一緒に散歩したりしました。このような素敵な寮生活が送れたことも本当に嬉しいです。

環境についてですが、1月から4月にかけて春のように暖くなることはありませんでした。常に雪が積もっていて、特に1月2月は体感がマイナス40度になるような寒い日が続いたりもし、そんな時には鼻が凍るのを体験しました。お湯を空気中に投げると一瞬で雪になる様子も目で見ることができ、面白かったです。



(左) スキー場へ向かう途中、(右) ダウンタウンの少し外れ